

神戸駅には三度しか使われていない豪華な部屋がある！

高架駅の先駆けとなった三代目の神戸駅には、ある用途のためとしては三度しか使われなかった貴重な部屋が存在する。それが貴賓室（きひんしつ）で、そのある用途とは、天皇陛下をはじめとする皇族の方々がこの駅を利用されたときに休憩されるためのものである。この貴賓室は間取りも広く高い天上からぶら下がるシャンデリアや大理石の暖炉、そして玉座は豪華そのものだ。しかし、これだけ贅沢な作りのこの部屋も貴賓室としてはこれまで三度しか使われていないのである。つまり、戦後すぐの兵庫行幸の際の1947（昭和22）年6月11日に昭和天皇が利用され、また、1954（昭和29）年4月5日の御召列車運転にあたり昭和天皇皇后両陛下がご利用、そして、1968（昭和43）年8月10日、上皇皇太后両陛下が皇太子時代に神戸駅から御乗車の際に利用されたという三度だけなのだ。

その後、貴賓室は一時期、駅長室として利用されてきたが、阪神大震災後の駅構内の大改装に伴い部屋そのものの取り壊しが計画されようとした。貴賓室そのものを持つ駅が全国的にもまれで、部屋ごと移築して鉄道関係の博物館に保存するという案もでたが、結局そのまま保存することとなり、今では、構内飲食店として、飲食できる部屋になっていて、シャンデリアや大理石の暖炉も当時のまま設置されている。



玉座↑ シャンデリア→
著者提供 1994年撮影



↑→現在、飲食スペースとして
活用されている元貴賓室



出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著